

令和5年5月31日  
世田谷保健所  
健康推進課

## 令和5年度 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ周知啓発にかかる取組みについて

### 1 主旨

「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス／ライツ（※1）周知啓発専門部会（※2）（以下「専門部会」という）および健康づくり推進委員会並びに議会における議論をふまえ、これまでにおける議論での課題及び令和5年度の周知啓発にかかる取組みについて報告する。

※1 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ：「性と生殖に関する健康と権利」と日本語では訳される。

※2 専門部会：委員名簿は別紙参照

### 2 経緯

世田谷保健所では、思春期世代が自分のからだや性への悩みを抱え込むことなく、性と生殖に関する健康や権利についての正しい知識を持ち、自身の生涯にわたる心身の健康を意識できるよう、令和4年4月に健康づくり推進委員会のもとに専門部会を設置し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツにかかる周知啓発について、人権や教育部門と連携して検討を進めてきた。

3回の専門部会を開催する中で、若者向けや保護者向けのワークショップ等を実施し、令和4年9月に中間報告をとりまとめ、福祉保健常任委員会に報告したところである。

その後、議会での議論に加え、健康づくり推進委員会並びに専門部会での検討を踏まえ、検討過程において当事者である中学生の参画や教育委員会等との連携をより一層図る必要があることから、検討スケジュールを変更し取り組むこととした（令和5年2月10日福祉保健常任委員会報告）。以後、2回の専門部会を開催し、現在、具体的な検討及び取組みを進めている。

### 3 これまでの議論での課題

#### （1）思春期世代に必要な情報の抽出および精査

- ・中学校で配付できる情報と、さらに深める情報の整理が必要。
- ・包括的な情報を隠さず提供することが必要な一方で、何が本質であるかという検討がさらに必要。
- ・全員に伝えるものと、初歩的なもの、中程度、高度等、発達段階に応じて必要な人に伝えるものを分けることが必要。
- ・学校の合意や意見を十分にすり合わせるべき。
- ・言葉が堅くならないよう中学生のためのものとして、工夫すべき。

#### （2）若者に届く啓発の工夫

- ・与えたい情報と得たい情報のギャップ、情報はあふれている割には正しい知識がなかなか得られない社会であることを前提に、高校生・大学生のほか、当事者である中学生も検討過程に加えていくことが不可欠。
- ・若い人たちがアクセスするメディアについてさらに把握することが必要。

#### （3）子どもたちを支える環境づくり（保護者・中学校・地域）

- ・中学生に伝え、相談を受ける側の大人達（教職員や関係機関職員、保護者等）の理解促進と相談への準備が必要。

#### 4 令和5年度の主な取組み（予定）

当事者である中学生の参画や教育委員会および子ども・若者部等との連携を図りながら、以下の取組みを行う。

##### （1）周知啓発物（リーフレット）の作成

①対象 中学生

②内容 専門部会等での意見をもとに、養護教諭や協力いただける中学生の意見を取り入れる。

③配付（配架）場所 調整中

##### （2）中学生向けオンライン講演会の実施

①対象 中学生

②時期 7月下旬（予定）

③内容 こころと体の健康について正しい知識を持ってもらうための情報提供

##### （3）中学校教員への理解促進研修（教育委員会）

①対象 生活指導主任

②時期 令和5年10月31日(火)午後2時15分～3時15分

③内容 調整中

##### （4）保護者向けオンライン講演会

①対象 子育て中（主に中学生）の保護者、テーマに関心のある区民

②時期 8月末から9月頃（予定）

③内容 調整中

##### （5）その他（中学生以外への啓発や他所管イベントとの連携等）

①幼児親子向け講座「すくすく広場」（教育委員会）

②小学生親子向け講座「STEAM講座」（教育委員会）

#### 5 今後の主なスケジュール（予定）

令和5年	6月～	リーフレット（案）の作成
	7月下旬	中学生向けオンライン講演会
	8月	幼児親子向け講座、小学生親子向け講座 第6回専門部会開催、保護者向けオンライン講演会
	9月	子ども・若者施策推進特別委員会報告
	10月	中学校教員への理解促進「生活指導主任研修」
	12月	第7回専門部会開催
令和6年	2月	子ども・若者施策推進特別委員会報告（最終報告、周知啓発物）
	3月	思春期世代に向けた情報提供の試行と実践 第8回専門部会開催、健康づくり推進委員会報告

令和5年度

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会委員名簿

(敬称略)

No.	所属	氏名	備考
1	東都大学沼津ヒューマンケア学部教授	松田 正己 ◎	健康づくり推進委員会委員
2	国立成育医療研究センター (周産期・母性診療センター母性内科)	荒田 尚子	プレコンセプションケア
3	明治学院大学社会学部教授	加藤 秀一	男女共同参画・多文化共生 推進審議会
4	三軒茶屋メリーレディースクリニック	長岡 理明	世田谷区医師会推薦
5	みくりキッズくりにっく	本田 真美	玉川医師会推薦
6	東京都助産師会世田谷目黒地区分会	岩佐 寛子	助産師会代表
7	NPO法人ピルコン	染矢 明日香	
8	東京都立中部総合精神保健福祉センター	菅原 誠	健康づくり推進委員会委員、子ども若者協議会思春期青年期精神保健部会員
9	世田谷区立中学校PTA連合協議会	栄 裕美	健康づくり推進委員会委員 (令和4年6月より就任)
10	世田谷区中学校研究会 学校保健部長	加藤 ユカ	中学校長会 代表 弦巻中学校校長
11	世田谷保健所長	向山 晴子	
12	世田谷保健所 副所長	清水 昭夫	※
13	生活文化政策部 人権・男女共同参画課長	生垣 明	
14	子ども・若者部 児童課長	寺西 直樹	※
15	世田谷保健所 感染症対策課長	高橋 千香	
16	教育委員会事務局副参事	井元 章二	(学校経営・教育支援担当)

◎部会長

※令和5年度から委員